

思川開発事業の目的

①思川および利根川中・下流の洪水被害の軽減

②流水の正常な機能の維持

③異常渇水時の緊急水の補給

④水道用水の供給 2.984m³/秒

栃木県 0.403m³/秒

鹿沼市 0.200m³/秒

小山市 0.219m³/秒

古河市 0.586m³/秒

五霞町 0.100m³/秒

埼玉県 1.163m³/秒 (非かんがい期)

北千葉広域水道企業団 0.313m³/秒

洪水調節

渇水時の補給

水道用水の開発

思川開発の総事業費 約1,850億円(今後増額の可能性がある) 1

南摩ダムの貯水容量配分図

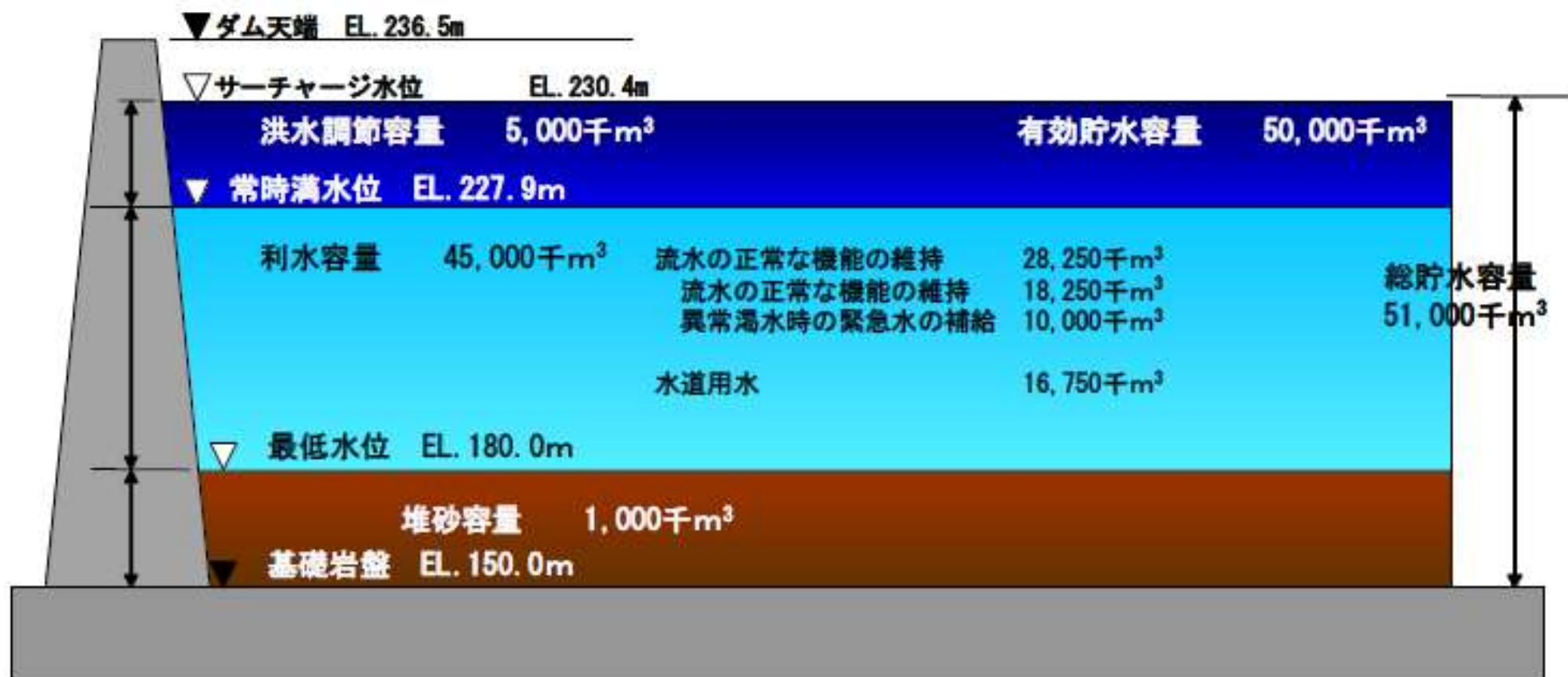


図 3 貯水池容量配分図

渇水時の補給は緊急性がなく、ダムの規模を大きくするための増量剤のようなもの

南摩ダムの洪水調節は必要か？

南摩ダムの治水効果は微々たるもの

南摩ダムの建設予定地（南摩川）



南摩川は流域面積が非常に小さく(12.4km²)、小川のような川である。

南摩ダムの治水効果は微々たるもの

南摩ダムのごく小さな流域面積から見て、思川や利根川の洪水に対する南摩ダムの効果は微々たるものである。

	流域面積
南摩ダム予定地	12.4 km ²
思川・乙女地点	760
利根川・栗橋地点	8,588

南摩ダム予定地の比率

思川・乙女地点に

対して 1.6%

利根川・栗橋地点に

対して 0.14%



水道水源の開発は必要か？

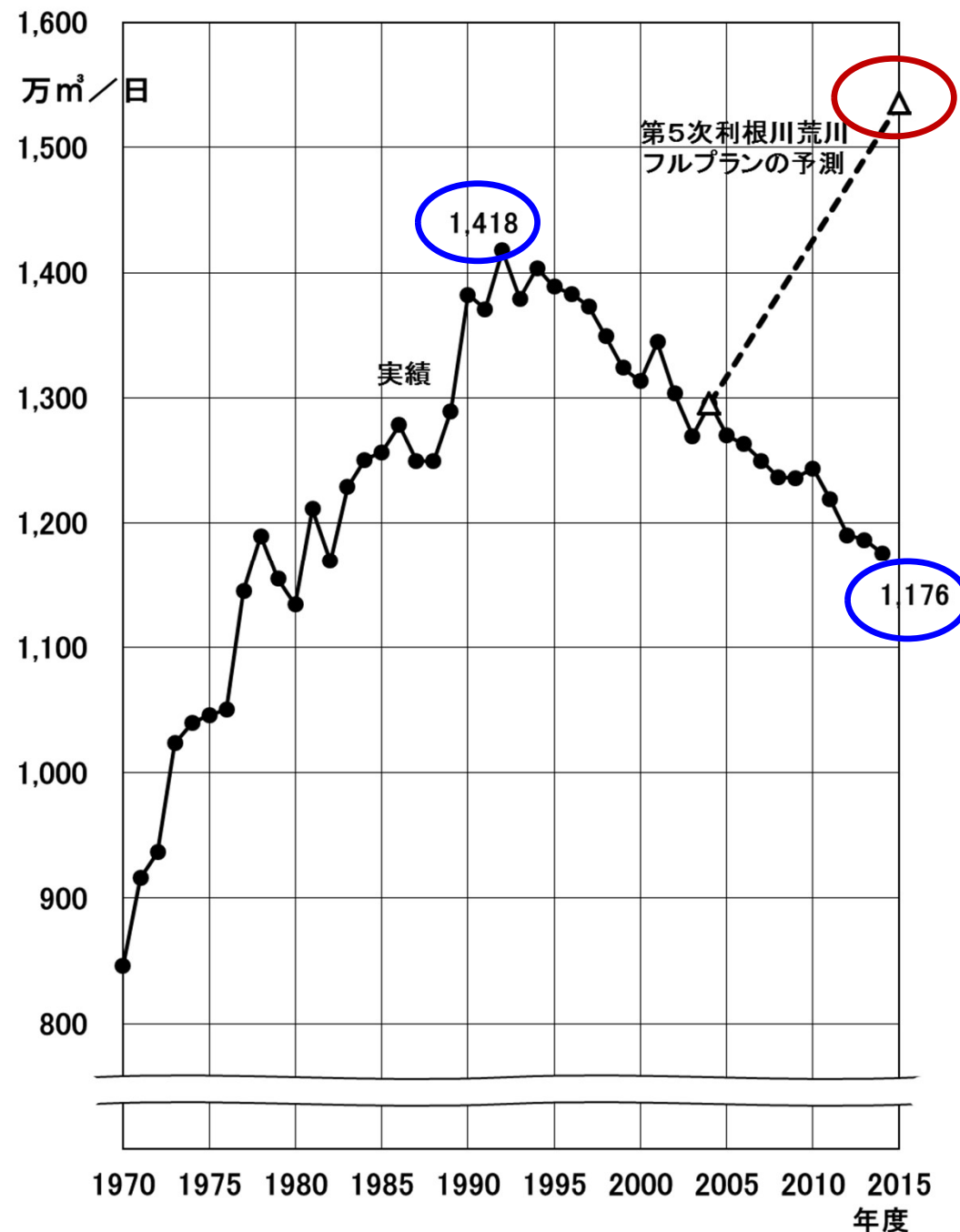
減り続ける水道用水 水余りの時代へ

6都県(茨城・東京・千葉・埼玉・群馬・栃木)の上水道の一日最大給水量は、1992年度から2014年度までの22年間に242万 m^3 /日も減った。

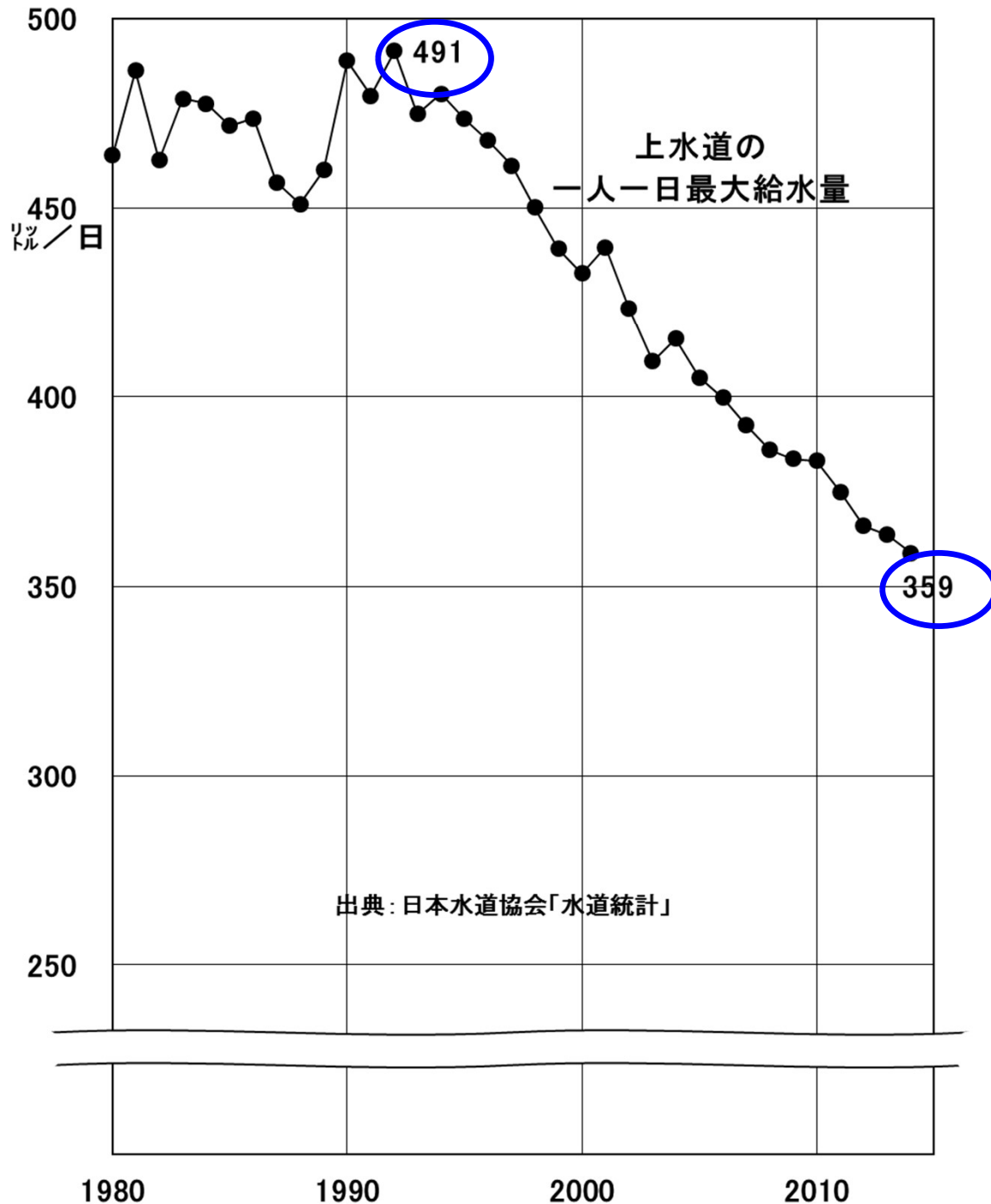
この減少量は思川開発事業の開発水量約26万 m^3 /日の約9倍にもなる。

ところが、国(第5次利根川荒川フルプラン)の予測は実績の傾向とは逆方向に増加し続けるとしている。

利根川流域6都県の上水道の一日最大給水量
実績と国の予測



利根川流域6都県の一人あたり水道用水の推移



6都県の一人一日最大給水量が年々減少

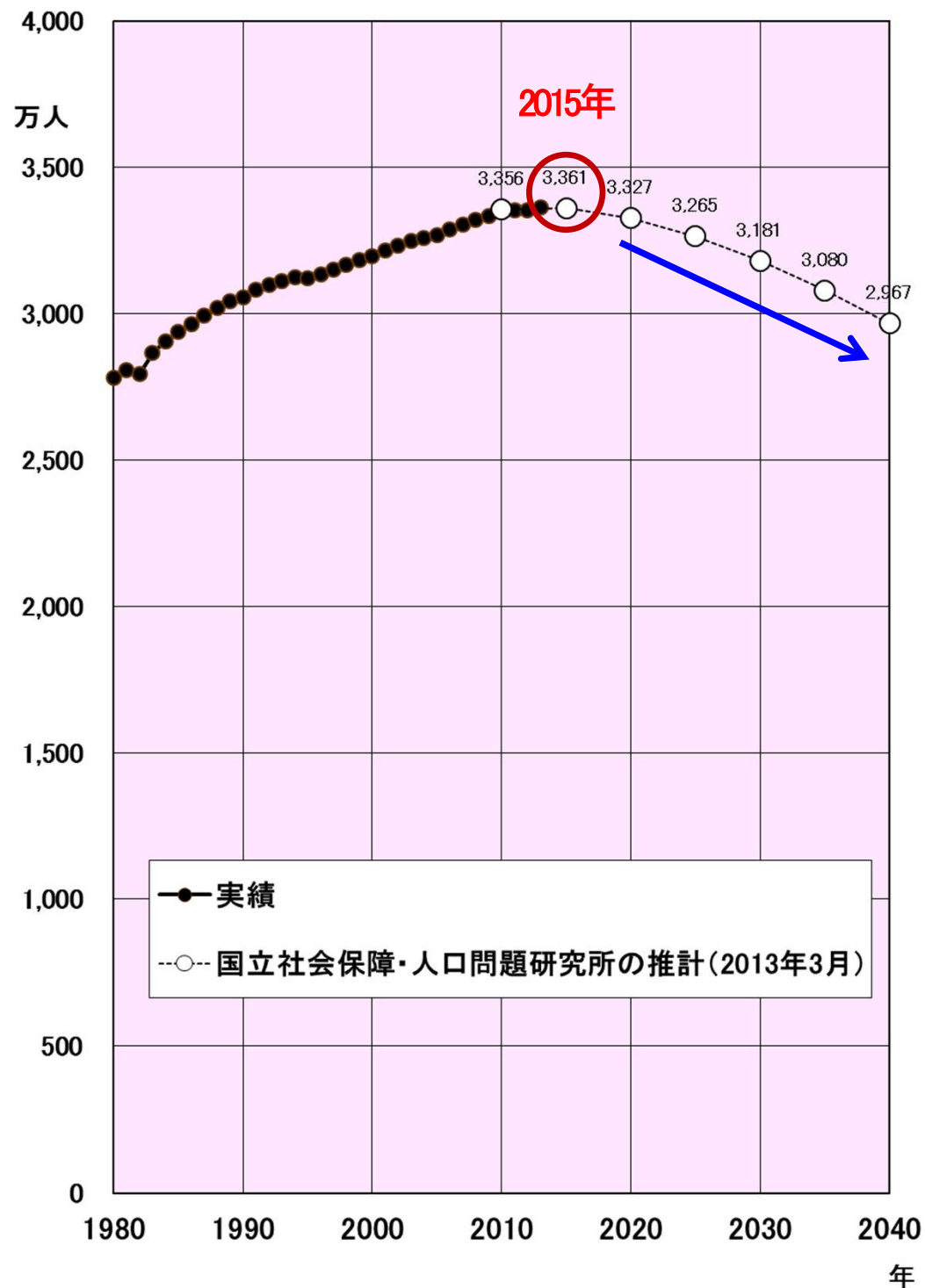
6都県の水道用水が最近約20年間、減少の一途をたどってきたのは、一人当たり給水量が年々減ってきたことにある。

1992年度の491リットル/日から2014年度の359リットル/日へと、27%も減っている。

一人一日最大給水量の減少要因

- ① 節水型機器の普及等による節水の進行
- ② 漏水防止対策による漏水の減少
- ③ 一年を通しての生活様式の平準化で給水量の変動幅が縮小

利根川流域6都県の人口の実績と将来推計

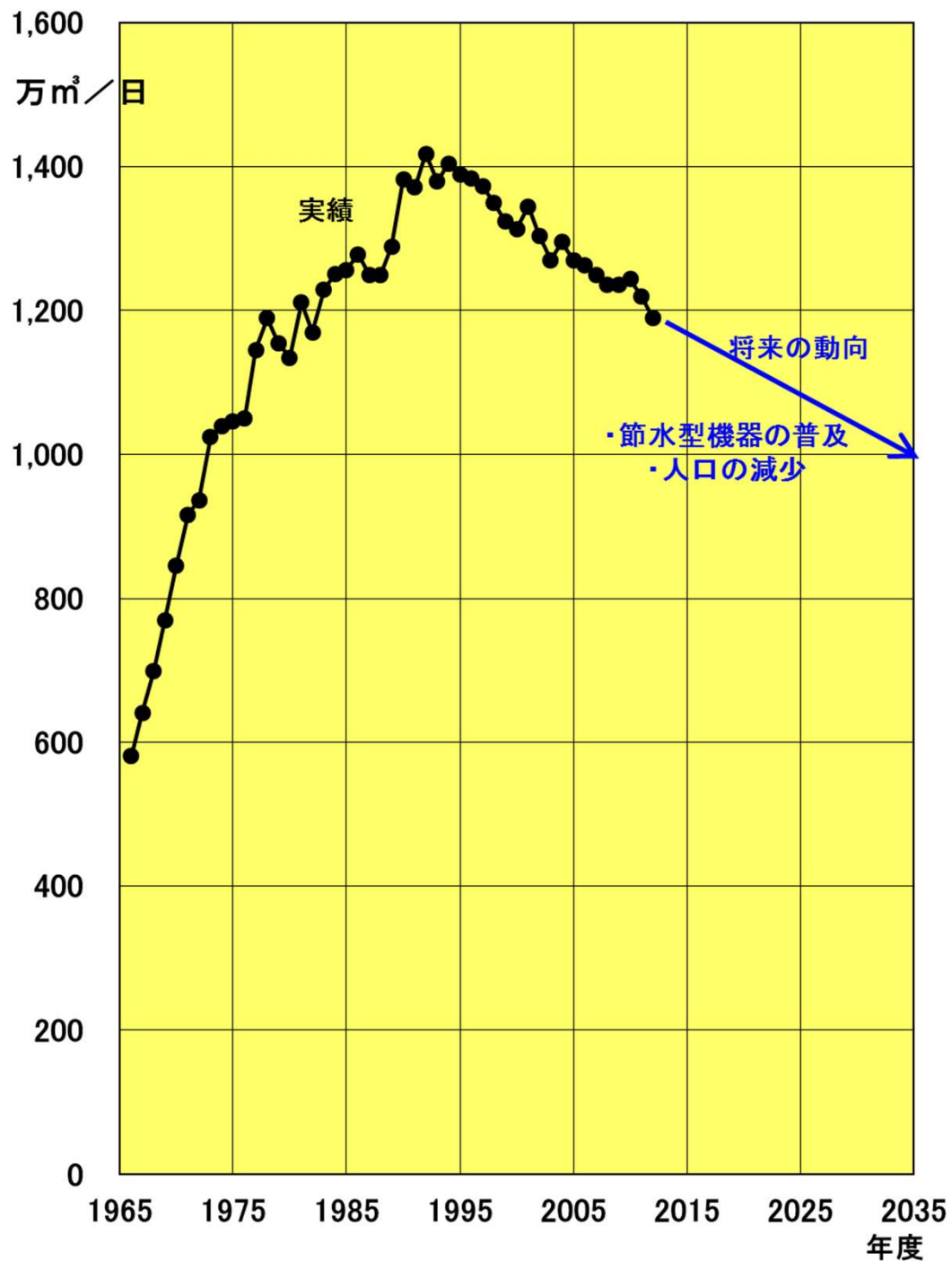


6都県の人口もまもなく
減少傾向へ

6都県全体としては人口
はわずかに増加傾向に
あるが、2015年以降は減
少傾向に変わる。

その後は減少速度が次
第に速くなって、2040年
には2,967万人となり、
2010年実績の88%にな
る。

利根川流域6都県の上水道の一日最大給水量 実績と将来の動向



6都県の水道用水の 需要は縮小の一途

今後は一人当たり水道
用水だけではなく、人口
も減少傾向に向かうから、
水道用水の需要が縮小
の一途を辿っていくこと
は確実である。